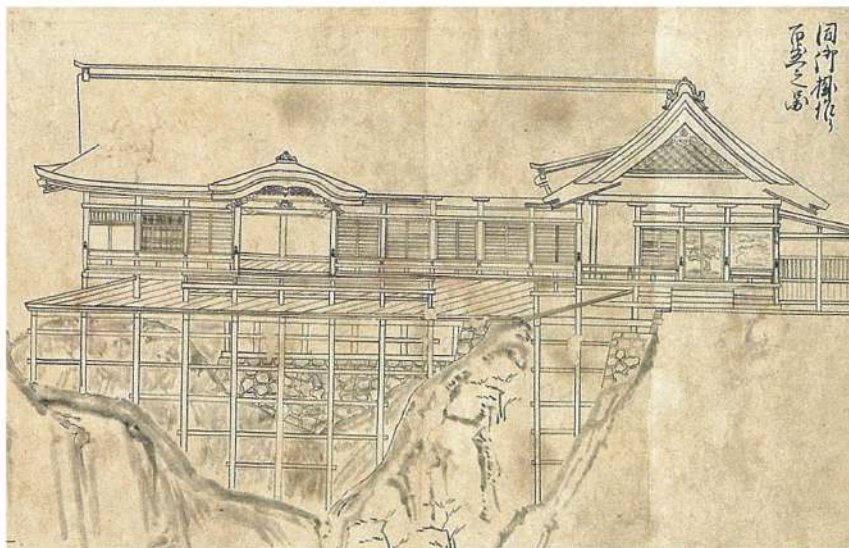


仙台城の懸造図(仙台市博物館『館蔵名品図録』より)



宮城県慶長使節船ミュージアム サン・ファン館 館長

ひらかわ あらた
平川 新

未来への航路

家康、港湾調査を許可

1611年6月に来

やすことができるので、マニラ商人にとってもメリットがありました。

日したメキシコ副主の使者ビスカイノは、太平洋貿易を求める家康と交渉を行いました。両者が考えていた貿易というのは、スペインの植民地であるマニラを出航したガレオン船が関東の港に寄港し、そこで食糧を積み込んでアカプルコに向かうという方法でした。

これまでは、マニラを出港してから4ヶ月以上かけてアカプルコに直航していました。そのため大量の食糧を積み込まなければならず、その分だけ高い荷物を減らす必要がありました。ところが日本に寄港することができれば、食糧積載を減らすことができます。そうすれば高い荷物を増

められました。家康は大名たちに、ビスカイノが調査に来たら丁重に対応するよう通達を

⑬ビスカイノ、仙台に行く

は接触していましたが、政宗がメキシコ質易に参入したいという希望をもっていることを知っていたからで

しょう。11月8日に仙台に着いています。

ビスカイノは日本滞在中のことを、スペインのメキシコ副主に『金銀島探険報告』として提出しています。

当時の日本の政治状況や、大御所家康や二代將軍秀忠、政宗とのやりとりなども詳細に書いており、当時の事情を知ることができる第一級の記録です。

そこで以下に、政宗や仙台藩領について何が書かれているのかを紹介することになります。

政宗は皇帝に次ぐ人物

ビスカイノは政宗について、この国最大領主の一人で、皇帝に次ぐ人物だと書いています。皇帝とは家康のことですから、当時の日



仙台城の本丸御殿図(上同)



仙台城模型(仙台市博物館)

むばかりでしょう。

水深き川に囲まれ、断崖の上に築かれた仙台城を見てビスカイノは、この国で最も優れた堅固な城だと驚いています。広瀬川と電口

は、関ヶ原合戦後の1601年に建造が開始されました。10年ほどかけて大手門や本丸御殿、角櫓などが造られ、追廻側の断崖の上には、せり出すように

本丸懸造も建てられていました。大橋あたりから見上げると、天空に屹立(きつりつ)する城郭に見えたと思

います。政宗はフィリピンやメキシコから船が来航すれば優遇する、この地で良港を見つけたほしいと要請しました。ビスカイノは、スペイン国王との友好協定を締結し、メキシコ副主と交渉できるようにしたいと答えています。

ひらかわ あらた
昭和25年、福岡県出身。東北大学名誉教授。館長に就任した。

東北大学災害科学国際研究所の所長などを経て、平成26―31年度まで宮城学院女子大学学長を務めた。専門は日本近世史、歴史資料保全学。令和4年4月に、3代目のサン・ファン館館長に就任した。